

「ずっとなかよし」

人物

【人間の学校】

A子（名前自由）

B太（名前自由）・学級委員長

学級委員 1

児童 2

児童 3

児童 4

児童 5

児童 6

児童 7

児童 8

児童 9

児童 10

児童 11

児童 12

児童 13

お	お	お	お	お	お	お	お	お	お	お	お	お	魔女・学級委員長	ミイラ男	【おばけの学校】
ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば	ば			
け	け	け	け	け	け	け	け	け	け	け	け	け			
1	1	1	1	9	8	7	6	5	4	3	2	委員			
3	2	1	0									1			

## ○教室

上手半分におばけの学校

下手半分に人間の学校

前にB太・学級委員・魔女・おば

け委員がいる

それぞれの端にA子、ミイラ男

B太「今日は月に一度のおばけ学校のお友達との交流会です」

魔女「みんなこの日をすっごく楽しみにしてます。だって、全然違う世界のお話がたくさん聞けるから！」

学級委員「楽しすぎて、いつもあつという間に時間が過ぎちゃうんだ」

おばけ委員「今日はみんなと何を話そうかなあ？」

A子「今日は月に一度の交流会の日。いつもはすごく楽しみなのに今日はちよつとユウウツです」

ミイラ男「今日は交流会の日。楽しみなはずなのに、ちよつとユウウツです」

A 子、ミイラ男席に着く

B 太、学級委員、魔女、おばけ委員が中心の教卓に立つ

B 太「おばけの学校の皆さんこんにちは」

おばけたち「こんにちは！」

魔女「人間の学校の皆さんこんにちは」

児童たち「こんにちは！」

B 太・魔女「今日はよろしくお願いしますます！」

一同、拍手

学級委員「それでは、最近ぼくたちの学校で流行っていることを紹介します」

児童 2 ～ 6 が出てくる

児童2 「最近は大縄跳びがみんな大好きなんだよ」

児童3 「この大きな縄で一斉に飛ぶんだ」

児童4 「今はまだ20回くらいまでしか

飛べないんだけど、目標は……」

児童2 と6 「百回！」

児童5 「毎日お昼休みに練習してるんだよ」

児童6 「見ててね！」

児童2 と6 、大縄跳びをする

おばけたち、拍手

おばけ2 「すごい！」

おばけ3 「みんなでいっしょに飛ぶなんて難しそう」

おばけ4 「クラスのみんながなかよしだからできるんだね」

おばけ5 「わたしたちもやってみたい」

おばけ 6 「今度やってみようよ！」  
 おばけ 2 ～ 5 「いいね！」

児童 2 ～ 6、戻る

おばけ 7 ～ 11、出てくる

おばけ 7 「ぼくたちのクラスでは、みんなに教えてもらった遊びが大人気なんだよ」

おばけ 8 「だるまさんがころんだ！大好きなんだ」

おばけ 9 「ストップする時にいろんなポーズするとおもしろいよ」

おばけ 10 「こんな感じでやってるんだ」

おばけ 11 「やってみよう！」

おばけ 7 ～ 11、実演する

ポーズ取るからグラグラ

児童 7 「楽しそう！」

児童 8 「普通にやるよりも難しそうだね」

児童 9 「その方がやる気出るよ！」

児童 10 「ぼく、片足立ちやってみよう

かな」

児童 11 「ぼく逆立ちやつちやおうかな」

児童 7 〽 10 「えー！」

おばけ 11 「ねえねえ、一緒にやろう」

児童 6 「大縄跳びも一緒にやろう！」

全員立ち上がってそれぞれに集

まる

A子、ミイラ男だけ座ったまま

児童 12 「A子ちゃん、やらないの？」

A子 「あ、うん」

おばけ 12 「A子ちゃん、行こう」

A子・児童 12・おばけ 12、だ  
るまさんチームに入る

おばけ 1 3 「ミイラ男くん、行こうよ」

児童 1 3 「ミイラ男くん！ いっしょに  
やろう！」

児童 1 3 とおばけ 1 3 、ミイラ男

をだるまさんチームに連れていこ

うとする

ミイラ男、立ち止まる

ミイラ男 「ぼくはいいよ」

おばけ 1 3 「どうして？ なかよしの A 子

ちゃんもいるよ」

ミイラ男 「いかない」

児童 1 2 、A 子連れてミイラ男  
に近付く

児童 1 2 「ミイラ男くん、遊ぼうよ」

A 子とミイラ男、離れる

児童 1 3 「どうしたの？二人とも」

おばけ 1 2 「仲良しだったのに。ケンカ  
しちゃった？」

A 子とミイラ男、背中向けている  
B 太と魔女が出てくる

魔女 「どうしたの？」

おばけ 1 3 「A子ちゃんとミイラ男くん  
がケンカしてるみたい」

魔女 「えーケンカ？」

B 太 「そうなんだ：でも、早く仲直りし  
た方がいいよ」

おばけ 1 2 「どうして？」

B 太 「A子ちゃん、転校しちゃうんだ」

おばけ 1 2 ・ 1 3 「えっ！」

B 太 「次の交流会の時はいないんだよ  
ね？A子ちゃん」

A 子 「うん」

魔女「遠くに行っちゃうの？」

A子「うん。遠くの病院に入院することになったんだ」

魔女「えっ！どこか病気なの？」

ミイラ男、振り返る

A子「うん……。でも大丈夫！難しい病気だけど、きっと治るよってお医者さんも言ってくれてるから」

魔女「そっか：元気になるといいね」

A子「ありがとう」

ミイラ男、うつむく

B太「だから、ミイラ男くん。仲直りしてあげてほしいな」

ミイラ男、そっぽをむく

おばけ 2 「A子ちゃん！遊ぼう！」

おばけ 1 2 「A子ちゃん行こう！」

A子 「うん」

A子とお化け 1 2 、おばけ 2 がいる方へ行く

B太 「ミイラ男くん、いいの？」

ミイラ男 「知らなかった：A子ちゃんが病気だなんて知らなかった。どうしよう、僕、本当に悪いこと言っちゃった」  
魔女 「なにがあったの？」

ミイラ男 「前の交流会の時のゲーム中に、

A子ちゃんとケンカになっちゃったんだ。それで僕、ムカツとしちやって」

B太 「ひどいこと言っちゃったんだ」

ミイラ男 「うん：。死ね！っていったかい言っちゃった：A子ちゃん、絶対すごく傷ついたと思う。きっとまだ僕のこ  
と怒ってるよ」

魔女「正直に謝ったらきつと許してくれ  
るよ。だってA子ちゃんはなかよしな  
んでしょ？」

ミイラ男「でも……」

B太「もう会えなくなるかもしれないん  
だよ！今言わなかったら、もうずっと  
謝れないかもしれない。それでもいい  
の？」

ミイラ男「いやだ！A子ちゃん！」

魔女、A子を連れてくる

ミイラ男、A子に頭を下げる

ミイラ男「この前は、ひどいこと言って  
ごめんなさい。本当はあんなこと思っ  
てない。A子ちゃんに死んでほしくな  
いよ！」

A子、ミイラ男に近付く

A子「ありがとう、ミイラ男くん」

ミイラ男「怒ってない？」

A子「うん。怒ってないよ」

A子とミイラ男、握手する

A子「最後に仲直りできてよかった。ミ

イラ男くんとは仲良しでいたいから」

ミイラ男「僕もだよ」

A子「一緒だね」

ミイラ男「いっぱい手紙書くよ。きつと

元気になってね」

A子「うん。約束する。さあ、いっしょ

に遊ぼう！」

ミイラ男「うん！」

A子とミイラ男、手を繋いで大縄

跳びのグループへ向かう

それぞれ楽しく遊んでいる

了